

平和週間の話（8月26日）

校長先生より

おはようございます。校長先生です。

今日から来週にかけて「平和週間」ということで、学級や学年のみんなと一緒に戦争や平和について学習をして、よりよい平和な社会をつくるためにどうすればいいのかを考える時間にしてほしいと思います。

さて、始業式の時にも少し話をしましたが、校長先生は夏休みに「世界遺産」の勉強をしました。毎日新しい発見があつて楽しく勉強することができました。

その「世界遺産」についての決まり事は、「ユネスコ」という機関で決められました。その「ユネスコ」は、世界中にひどい傷跡を残した第2次世界大戦の後、2度と戦争を繰り返さない平和な世界をつくりだすことを目的として、つくられた機関です。「教育」や「科学」・「文化」などを通して平和な世界を築くという平和の理念をもって活動しています。ユネスコ憲章というものの最初には平和について、次のように書かれています。

「戦争は人の心の中に生まれるものだから、人の心の中にこそ、平和のとりでを築かなければならない」

とりでとは、外からの攻撃を防ぐための建物のことです。

つまり、自分の心の中に起こる、戦争につながるかもしれない「怒り」や「憎しみ」が外に出ていかないように、心の中に「平和のとりで」をつくりましょうということ。

この「平和のとりで」を世界中の人々が、全員心の中につくることができればどうでしょう？この世の中から戦争がなくなると思いませんか？もし誰かが「平和のとりで」をつくることができなくても、周りのみんながつくることができているならば「怒り」や「憎しみ」をなぐさめてあげることができるのではないのでしょうか。そうすれば戦争は起こらないのではないのでしょうか。

私たち一人ひとりが自分の心の中にしっかり「平和のとりで」をつくって、周りの友達と一緒に「怒り」や「憎しみ」を外にださないような努力して、今、この時から戦争のない平和な世界をめざしていきましょう。

これで校長先生の話が終わります。